

万葉の花とたつゑの短歌

ハマユウ (撮影 宮澤正樹氏)



『万葉集』は、7世紀後半から8世紀後半にかけて編まれた日本に現存する最古の和歌集です。全20巻、4,500首余りの歌が収められています。その約半数もの歌に植物が詠みこまれています。詠われた植物は160種類にも及び、その中には食用や染色、薬用など生活につながるものも多く見られます。

生方たつゑは、歌集の他に、歌書・随筆・評伝（評論を交えた伝記）なども書いており、万葉集を題材にしたもの

もあります。『額田姫王』^{ぬかたのおおきみ}（昭和51年発行）や『大津皇子』^{おおつのみこ}（昭和53年発行）では、その生涯を描き、『王朝の恋歌』（昭和48年発行）では、万葉・古今・新古今集の女性歌人らの恋歌を中心に、女心の機微を書いた女流歌人論を、『古典の中の愛と怨み』^{おおとものやかもち}（昭和57年発行）では、額田王と大津皇子、大伴家持をめぐる女性たち、源氏の女性たちとの心の葛藤を描いています。

そんな古典に親しんだたつゑの短歌が、万葉の植物の美しい写真に彩られ、より一層味わい深くなりました。短歌と写真が織りなす可憐な世界をお楽しみください。



生方たつゑ



宮澤正樹氏
(みやざわまさき)

群馬県太田市在住。40年にわたる登山経験の中で山岳写真を撮り続け、15年前から『万葉集』に関係する写真撮影を始める。万葉植物写真研究会を主宰し、万葉の故地や植物を訪ねて、貴重な風景や花々をカメラに収めている。近畿や富山県高岡などの万葉ゆかりの地の研究会にも所属し、『万葉集』や歌人について研究を重ねる。植物の可憐な表情を鮮やかに捉えた写真は各方面から注目を集め、県内にとどまらず全国各地で個展を開催。写真印刷に和紙を用いるなど新しい表現方法を追求してきた。万葉の花々に関する講演活動をはじめ、近年では広く古典文学等についての講演も行っている。

【交通のご案内】

バス JR 沼田駅から関越交通バス6分 上之町

JR 沼田駅から関越交通バス6分 東倉内町

車 関越自動車道 沼田 IC から車で約10分

【駐車場】3台。満車の場合は、東和銀行西隣、又は沼田市役所をご利用下さい。

